

12-3 “ものづくり”の究極は人づくり

筒井 宣政 (株式会社東海メディカルプロダクツ会長・登龍門運営委員)

イギリスのEU離脱、トランプ大統領のような従来とはまったく異質な政治リーダーの台頭、人工知能AIの飛躍的な発展などで、私たちを取り巻く社会情勢は大きく変貌しつつあります。こうした先行き不透明な時代におけるグローバルリーダーには、常に「物事の本質を求めること」と「考え方がぶれないこと」が大切だと思います。私はこの40年間、大学で学んだ経済学とはまったく違うメディカルデバイスの分野で、バルーンカテーテルなどの開発に取り組んできました。そして、モナコで開催された「EYワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー2016」で国際表彰していただきました。これは多くの方々の協力の賜物であり、心より厚く感謝しております。“ものづくり”株式会社東海メディカルプロダクツの責任者としては、「金儲けではなく、できるだけ多くの人の命を救う」ことを第一に考え、社会貢献を目指してきました。



長年、“ものづくり”に携わってきた経験から、「目標を自分が思っている10倍くらい高くして、絶対にあきらめない、やり遂げるという強い気持ちでがんばれば、達成できることはたくさんある」と、いつも話してきました。しかし、物事が自分の予想通りに進むことはほとんどありません。うまくいかない時にこそ、自分が取り組んでいることについて、深く、そして少し視点を変えて考えることが大事だと思います。これは、“ものづくり”でも、研究でも、スポーツでも同じです。柔道などで使われる「押してもダメなら引いてみな」には、この精神が生きています。今後、人工知能AIの果たす役割はますます大きくなると思いますが、登龍門履修生の皆さんには、「人間にしかできないこと、自分にしかできないこと」を見つけだし、志を高くしてチャレンジを続け、その分野のリーダーに成長されることを願っています。登龍門プログラムは質が高く、他大学にはないプログラムなので、特色のある有為な人材がどんどん育っていくことを期待しています。

登龍門プログラムに対する文部科学省からの補助金は、平成30年度で終了と聞いていますが、名古屋大学には、ぜひこのプログラムを残す方向で考えていただきたいと思っています。プログラムの継続には、履修生の大幅な定員減と奨励金の減額など、抜本的な見直しが必要かもしれません。しかし、スリム化したプログラムの提案があれば、外部資金も獲得できる気がします。国費だと一定の枠に縛られてしまいましたが、民間からの寄付金であれば自由闊達に活用できると思います。スリム化しても、登龍門プログラムの基本部分は残して、世界で活躍できるグローバル人材を育成していただきたいと考えます。

12

グローバルリーダーからみた登龍門

第Ⅲ部 登龍門の成果と今後の課題 — 129

第11章 履修生からみた登龍門 — 130

- 11-1 登龍門からの学びと新しいチャレンジ 李尚 — 131
- 11-2 興味や関心が未来を拓く 新美潤一郎 — 132
- 11-3 登龍門と研究、そして教育へ 加藤紫帆 — 133

第12章 グローバルリーダーからみた登龍門 — 134

- 12-1 世界に向けてミッション、ビジョンを発信できる人材の養成を期待
赤阪清隆 — 135
- 12-2 登龍門への期待：専門を超えたりベラルアーツの修得 川口文夫 — 136
- 12-3 “ものづくり”の究極は人づくり 筒井宣政 — 137
- 12-4 社会にイノベーションを起こすグローバルリーダーへ 富永由加里 — 138
- 12-5 「真の課題を見つける力」を身につけたグローバルリーダーに期待
橋本孝之 — 139

第13章 登龍門のこれから — 140

- 13-1 プログラムの成果検証と改善 杉山直 — 140
- 13-2 プログラムオフィサーからの評価1 大岩烈 — 142
- 13-3 プログラムオフィサーからの評価2 瀧口克己 — 143
- 13-4 名古屋大学への内製化と波及効果 前島正義 杉山直 — 144

引用文献 — 146

あとがき 杉山直 — 148

執筆者一覧 — 150

编者紹介 — 151

次世代の リーダーを担う 博士人材の育成



—名古屋大学 PhD プロフェッショナル登龍門の取り組み—

杉山直・田中瑛津子 [編]